

遺伝に関する正しい知識と最新知見を提供し、共に考えるカウンセリング

臨床遺伝専門医（小児科学講座 教授、臨床遺伝医療部 部長） 江口 真理子 認定遺伝カウンセラー 尾崎 依里奈 認定遺伝カウンセラー 藤原有基

臨床遺伝医療部と遺伝カウンセリング

臨床遺伝医療部には、臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラー、遺伝医療に関わる医師が所属しています。遺伝性の病気や不安を抱えた方を対象として完全予約制で遺伝カウンセリングを行っています。遺伝カウンセリングは、疾患や不安が何が原因で起こっているのか情報を整理して、患者さんによりよい選択をしてもらうことが目的です。その人自身の既往歴だけでなく、家族の疾患なども含めて患者さんの情報を集め、どのような検査があるのか、検査ではどのような結果が得られるかといったことを説明し、患者さんに選択してもらうための支援が遺伝カウンセリングです。対象とする方も周産期領域・小児領域・成人領域と幅広く対応しています。

専門診療科の全面協力による知見の提供

臨床遺伝医療部が現在力を入れているものに、がんのゲノム医療とIRUD（未診断疾患イニシアチブ）があります。近年、遺伝性のがんの治療や研究が積極的に行われるようになりました。当院の特徴は、病院として遺伝性疾患への理解が深く、協力体制が整っているため、様々ながんのゲノム医療についての遺伝カウンセリングが受けられることです。遺伝性のがんは全身疾患であり、全身の様々なところに症状が出てくることがありますので、ひとつの診療科では治療できない場合もあります。その繋ぎ役となるのが臨床遺伝医療部であり、当院では診療連携をスムーズに運ぶことができています。また、遺伝性乳癌卵巣癌症候群における、四国で2ヶ所の基幹病院の1つに選ばれています。

がん以外の遺伝性疾患に対する診療・研究として未診断疾患イニシアチブ（IRUD）があります。診断のついていない患者さ



PROFILE

- 写真右／ふじわらゆうき○今治市出身。2015年近畿大学大学院遺伝カウンセラーコース卒業。2018年末まで獨協医科大学埼玉医療センター 遺伝カウンセリングセンターで遺伝診療に従事。本年度より当院勤務。趣味は、映画鑑賞、アウトドア。
- 写真中央／えぐちまりこ○広島大学医学部卒業。2008年より当院、2019年より現職。好きな言葉はスティーブ・ジョブズ氏の「Have the courage to follow your heart and intuition」（自分の心を信じる勇気を持つ）。
- 写真左／おざきえりな○2014年近畿大学大学院総合理工学研究科遺伝カウンセラーコース卒業。2014年より愛媛大学医学部附属病院入職。

んの遺伝子を網羅的に調べ、診断や疾患の治療を決める手がかりを得ることを目的とするプロジェクトです。このプロジェクトは日本医療研究開発機構（AMED）が主導しており、日本全国の大学病院や研究機関が連携して、全国の患者さんへ診断を提供しています。当院も全国で38ヶ所の拠点病院のひとつとして四国全体の遺伝診療体制構築に寄与しています。

患者さんの悩みと問題を共有することからスタート

人は誰でも病気の原因となる遺伝子の変化を5~6個くらい持っています。遺伝性疾患には、遺伝子の変化を持っていると必ず発症するものも、持っているだけでは発症しないものもあります。また、親兄弟や子どもなど家族にも遺伝が引き継がれている可能性があります。その場合、家族にも影響ができる可能性があるときには相談し、家族の方にも受診していただいたり、様々な診療科と診療連携を行ったりします。

遺伝に関するることは非常にデリケートで、誤解も多い分野ですので、強い不安を抱えながらカウンセリングを受けに来られる患者さんもいます。私たちは、信頼してもらうことはもちろんですが、気軽に話を聞いて相談できるような関係を築くことを目指しています。

